

バスケットボール

近畿高校大会

バスケットボールの近畿高校大会最終日は23日、大阪市の丸善インテックアリーナ大阪で男女

の準決勝と決勝があり、兵庫勢で唯一、4強入りした男子の報徳は準決勝で洛南（京都）に73-92で敗れた。男子は東山（京都）が2年ぶり4度目、女子は

大阪薫英女学院が11年連続33度目の頂点に立った。今大会から男女の優勝府県に、12月の全国高校選手権の出場1枠が新たに与えられる。

報徳 決勝ならず



男子準決勝・洛南－報徳 第4クォーター、相手をかいくぐりシュートを決める報徳の本多（中央）

得点パターン阻まれ不発

男子準決勝の報徳は、2月の近畿新人大会で破った洛南に、今度は歯が立たなかった。田中コー

チが「デービッド（コンゴロ）頼みじゃ駄目」

という課題が浮き彫りになった。

先発ガードの宇都宮は「以前と違い、相手のデ

8月のコンゴロにパスを入れる報徳の得点パターンは、2〜3人がかりで取り囲み、一歩も引かない洛南を前に不発。相手守備は外への当たりも

【男子】準決勝 東山（京都）89-60 関大北 洛南（京都）261-182 報徳（京都）211-181 73（兵庫）

▽決勝 東山94-68 洛南 74-67 奈良文化、大阪桐蔭 学院65-61 京都精華学園▽決勝 大阪薫英女学院92-50 大阪桐蔭

強めてきたため、外角シュートでリズムをつかむこともかなわなかった。昨年12月の全国選手権では兵庫男子23年ぶりの8強進出に沸いた。今夏のインターハイでさらなる高みを狙うには、日本人選手の自立と「ダブルチーム、トリプルチームをされない攻め方」（田中コーチ）が必要になる。この日、12得点と奮闘した先発フォワードの本多は「チームはまだ仕上がっていない。僕たち3年生がまとめ、ゲームに臨みたい」と立て直しを期した。（藤村有希子）